



市民と守った おでかけ 応援制度 (100円バス・阪堺電車)



前号のおさらい

永藤市長は、2019年9月19日の決算審査特別委員会で「維持だけではなく、**拡充をめざしていく**」と答弁ではっきり言っていました。



公約破りの永藤市長

公約は政治家の命ともいえる大事なものです。永藤市長は2017年・19年2回の市長選挙でおでかけ応援制度の「拡充」を公約に大きく掲げていました。

維新市長になれば制度がなくなるのではないかと心配する市民に対して「相手候補のデマに騙されないでください。制度は

拡充します」と訴えていました。

しかし、騙されたのは維新の公約を信じた市民の方でした。



本会議で質疑する石谷やす子議員



要望署名を手わたす市民のみなさん

維新を除く全会派反対で否決

市民の声が維新市政の横暴を止めました。

おでかけ応援制度改悪案が発表されてから、制度を守ってほしいと12月議会に提出された署名は6,400筆以上。多くの市民から各会派の議員に要望が届けられました。

2004年度に始まった当制度は、月に3回の利用日限定でしたが、市民の強い要望に応じて全会派が賛成して改正を繰り返し、現在の制度に完成させてきました。堺市民の誇る制度です。

維新議員は、健康増進にもならず税収効果がほとんど無い、税投入が無駄だとして制度縮小を正当化し、さらに制度そのものを否定する意見でした。

対象者(65歳以上)
234,698人中のカード保有率

持っている
69.9%
(163,956人)

※堺市HP 2020年度
おでかけ応援制度の利用状況より



「身を切る改革」をさげぶのに 「政党助成金の廃止」に 維新が理由も述べず**反対**

共産党が提案した「政党助成金の廃止を求める意見書」に維新は反対しました。共産党以外の政党に年間約318億円、国会議員一人当たり約4,500万円以上が流れる政党助成金。「身を切る改革」を言うなら、税金ガッポリ山分けの政党助成金こそ廃止すべきです。

2022年
3月で
廃止

かけがえのない財産

「日高少年自然の家」なくすな

「本当に良い施設なのに、なくさんって」「来年は無いなんて悲しい」との子どもたちの声を無視して、3月末で廃止の条例案が出されました。

豊かな自然環境は、臨海学校などで、子どもたちの健全育成にかけがえのない役割を果たしてきた施設です。体育館耐震と外壁リニューアル工事で2017年に約1億4,000万円で綺麗にしました。この先何年も使えるのに残念です。

コスト削減だけのため、廃止計画も立てず、突然の廃止提案には納得できません。



南区 藤本さちこ
健康福祉委員会



東区 いぬい恵美子
産業環境委員会



北区 石本京子
文教委員会



西区 森田こういち
総務財政委員会



堺区 石谷やす子
建設委員会(副委員長)

無料法律相談(要予約)を受け付けています。その他のご相談もお気軽にお寄せください。072-228-7261

共産党も強く要求した「希望者・無症状者にも新型コロナ無料検査」実現。詳細・問合せ先:06-7177-9542 (大阪府「無料検査事業」コールセンター)